アトサヌプリ(硫黄山)火山災害への備えを

防災ワンポイントコーナー

アトサヌプリ(硫黄山)は、３月23日から噴火警戒レベルが運用されました。

アトサヌプリは、警戒レベル「１」(活火山であることに留意)に指定されましたが、火山活動に特段の変化はなく、穏やかに経過しています。噴火の兆候も認められていません。

警戒レベルの概要については、広報てしかが３月号でお知らせしました。今月は、レベルの概要や火山現象、避難の考え方などについて説明します。

《噴火警戒レベル運用の目的と概要》

アトサヌプリ火山は阿寒国立公園に含まれ、西の屈斜路湖と東の摩周湖に挟まれた位置にあります。付近には川湯温泉などがり、多くの観光客の方が訪れています。周辺には観光道路や、つつじヶ原自然探勝路が整備されているほか、火口から約200ｍの近さに硫黄山レストハウス、さらに東側をＪＲ釧網線が縦走し、約１㎞のところに川湯温泉駅があります。

火山の恵みを享受するには、火山活動に対する「安心」「安全」を得るための防災体制の構築が不可欠です。住民や観光客の皆さん、関係機関が取るべき防災対応を、分かりやすく５段階(「１／活火山であることに留意」「２／火口周辺規制」「３／入山規制」「４／避難準備」「５／避難」)にレベル分けした『噴火警戒レベル』の運用により、より効率的な火山防災体制の構築と、住民や観光客の皆さんの「安心」「安全」の確保が期待できます。

《アトサヌプリ火山と各溶岩ドームの位置》

外輪山の内外にあるアトサヌプリを含め、周辺にある10個の溶岩ドームを合わせて、アトサヌプリ火山といいます。

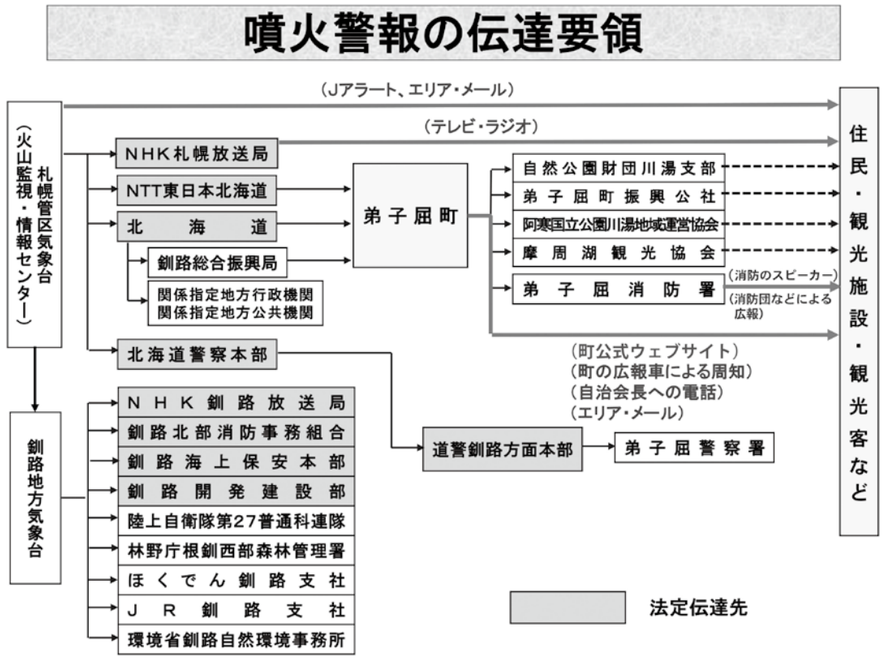
《噴火ケースに応じた火山現象》

ケース	現象名	状態
水蒸気噴火 マグマ噴火	噴石	噴火により吹き飛ばされた岩石などのこと。 大きな噴石(概ね直径50㎝以上)は、風の影響を受けずに火口から弾道を描いて四方に飛散・落下する。 小さな噴石(概ね直径50cm未満)は風の影響を受け、風下側ではより遠くまで飛散する。 飛散範囲は爆発の強さなどにより異なる。
	降灰	火口から高く噴き上げられ降下した火砕物をいう。 火砕物は上層風に流されて火口の周辺や風下側に降下し、人々の生活や経済活動に大きな打撃を与える。 直径２㎜未満のものを火山灰といい、物質としては、火山ガラス、鉱物結晶、古い岩石の破片などである。 ガラス物質を含むため、吸引すると非常に危険である。
	火砕流	高温の火山灰、溶岩片などと高温のガスが一団となって、高速で山を流れ下る現象。温度は数百度、最大速度は時速100㎞以上にも達し、通過域では壊滅的な被害が生じる。 火砕流から身を守ることは不可能で、噴火警報などを活用した事前の避難が必要である。
	火砕サージ ベースサージ	気体に富んだ高温の流れで、火砕流の周辺部分やマグマ水蒸気噴火に伴って発生することもあり、火山礫(れき)や火山灰を主体とする。 火砕流に比べて見かけの密度ははるかに小さく、砂嵐のような現象である。しかし、構造物を破壊するほどの威力があり、高温の場合は火災を引き起こすこともある。 マグマ水蒸気噴火に伴って地下水を吹き上げて発生する火砕サージを、ベースサージとも呼ぶ。
	溶岩ドーム	粘性の大きな溶岩が広がらず、噴出口の上に盛り上がったドーム状の火山体をいう。 (アトサヌプリ、昭和新山などが有名)

《噴火警報の伝達》

水蒸気噴火でもマグマ噴火でも、噴火前には火山性地震や火山性微動、山体の膨張など、何らかの火山現象があるため、事前に情報の発信を行いながら、避難準備を整えていきます。

噴火警報の伝達要領は下図のとおりです。皆さんは日頃から、情報収集手段の確保、家族や知人、隣近所の方との連絡・連携について、確認しておきましょう。



問い合わせ先／役場総務課情報防災係☎４８２-２９１２(課直通)